

## 学位論文審査の要旨

		要 旨
学位申請者	下村 道子 【比較社会文化学専攻 平成21年度生】	
論文題目	ニコラス・ヒリヤード『リムニング技術論』の研究	
審査委員	(主査) 教授 徳井 淑子	<p>本論文は、16世紀イギリスの細密肖像画家ニコラス・ヒリヤードが著した『リムニング技術論』を、その大部を占める宝石論に着目して読み解き、新たな評価を与えることによって彼の作品の流行の要因を探ろうとするものである。第1章では細密肖像画の成立の過程とヒリヤードの作品の作風について、第2章では技術論のテキストのこれまでの評価について、先行研究により検証している。これらを踏まえて第3章では宝石論を古代以来の宝石誌の伝統のなかで捉え直すことから近代性という特質を明らかにし、第4章では肖像画の描法への宝石論の影響を考察し、金細工と共有される彼の技法の独自性を論じている。</p> <p>第1回審査委員会では、ヒリヤードの研究がこれまで十分には行われず、また宝石論に注目されることもなかった状況のなかで、これを分析した独創性、また近代性という新たな評価を提示した点で評価された。ただし問題提起に結論が対応していない点など、本論の目的・意義が明確でないことが指摘され、また表現や翻訳の不適切な箇所や書式の不備があり、修正を求められた。</p> <p>第2回審査委員会では、表現・書式の不備や誤訳が概ね修正され、論旨がより明確になったことが確認されたが、結論が宝石論の分析に基づく近代性の指摘にとどまり、『リムニング技術論』全体の評価という視野を欠いたこと、またテキストが暗示するジェントルマン論との関わりや画家ヒリヤードの人間像など、今後展開すべき課題についても言及すべきことが、修正として求められた。</p> <p>申請者は、これらを修正した上で公開発表会に臨み、明快に論旨を説明し、会場からの質問にも的確に応答した。最終審査委員会において、修正点を確認し、本論文が博士(人文科学)、Ph.D.in Fashion History and Theory に値するものと判断された。</p>
	教授 新井 由紀夫	
	教授 松崎 毅	
	准教授 鈴木 禎宏	
	跡見学園女子大学 教授 吉澤 京子	
インターネット公表	<p>○ 学位論文の全文公表の可否 ( 可 ・ <input checked="" type="radio"/> 否 )</p> <p>○ 「否」の場合の理由</p> <p style="margin-left: 20px;">ア. 当該論文に立体形状による表現を含む</p> <p style="margin-left: 20px;">イ. 著作権や個人情報に係る制約がある</p> <p style="margin-left: 20px;"><input checked="" type="radio"/>. 出版刊行されている、もしくは予定されている</p> <p style="margin-left: 20px;">エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている</p> <p style="margin-left: 20px;">オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている</p> <p>※ 本学学位規則第24条第4項に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p>	